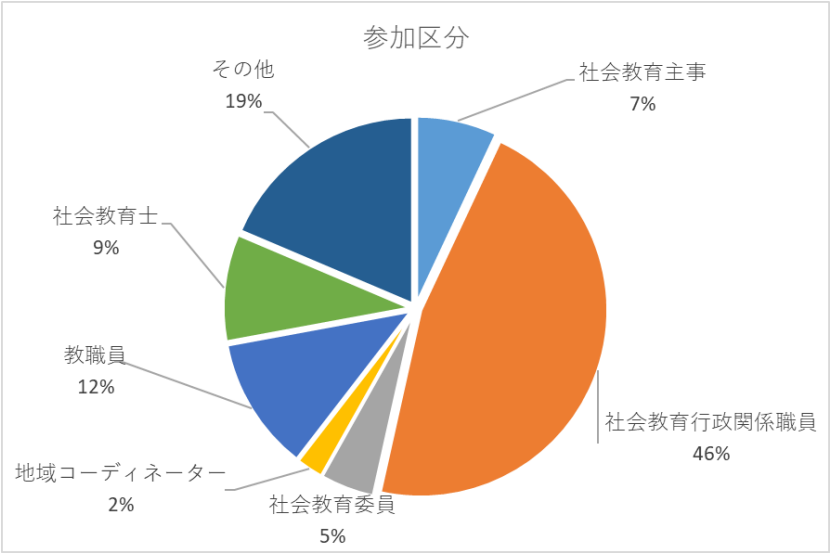


「生涯学習・社会教育に関する基礎的事項や今日的な課題について」

事業の内容

- 1 日時 令和7年5月9日（金）
10：00～11：30
- 2 場所 Web 会議システム zoom
- 3 参加者 65 名



I プログラム

10:00 10:05		11:30 11:40		12:00
受付	開会	講義 質疑応答	閉会	学習相談 (事前申込者のみ)

【講義】 「生涯学習・社会教育に関する基礎的事項や今日の事項や今日的な課題について」	【内容】 「社会教育」と「生涯学習」の言葉やそれぞれが持つ意味、視点など、基礎的な内容を学ぶだけでなく、なぜ社会教育や生涯学習が求められているのか、背景を理解することにより、より一層理解を深めた。
【講師】 文教大学 准教授 青山 鉄兵 氏	

① 行政による間接的/側面的な支援（＝環境醸成）

- ・社会教育の基本は学習者の自発性の尊重
- ・社会教育行政の基本は「求めに応じて」
- ・戦前の教化・動員的な社会教育への反省 → 民主的な住民自治のための学習

② 積極的な住民参加のしくみ

- ・社会教育委員や公民館運営審議会などの仕組み
- ・求められる社会教育/公民館のあり方は地域や自治体ごとに違うはず

③ 「学び」と「地域づくり」の循環

- ・学習の舞台としての「地域コミュニティ」の重視 → 公民館は市町村立の
- ・日常生活と密着した学習
- ・地域と関連した学習、学習を通じた地域づくり

→ 職員に求められる【コーディネーターとしての役割】と【ファシリテーター】としての役割

② コーディネーターとしての役割

- ・そもそも、社会教育行政の役割は「間接的な支援」 ※社会教育主事の4つのP
- ・1990年代以降、コーディネーターへの注目
 - 背景：学習ニーズの高度化・多様化、財源の縮小、一般行政・企業・NPOとの連携の重視
 - 2000年代以降、「地域づくり」と「学校支援」の重視
 - コーディネート＝間接的な支援の総称

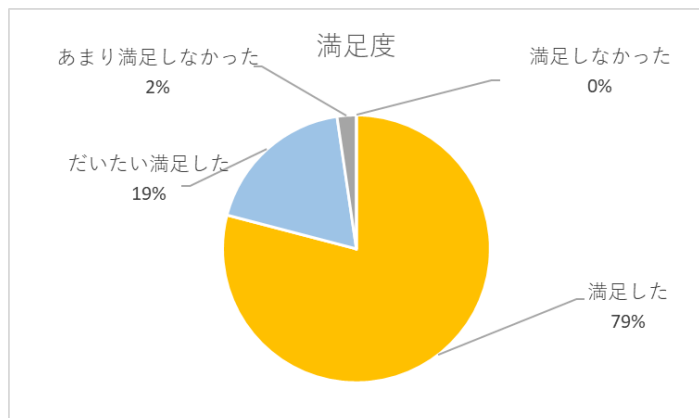
③ ファシリテーターとしての役割

- ・ワークショップ（参加・体験型の学習方法）の流行
 - キーワードは「参加」「体験」「グループ」
 - 背景にあるのは、一方的な知識伝達による学習への反省
 - 「地域づくり」の方法としての活用

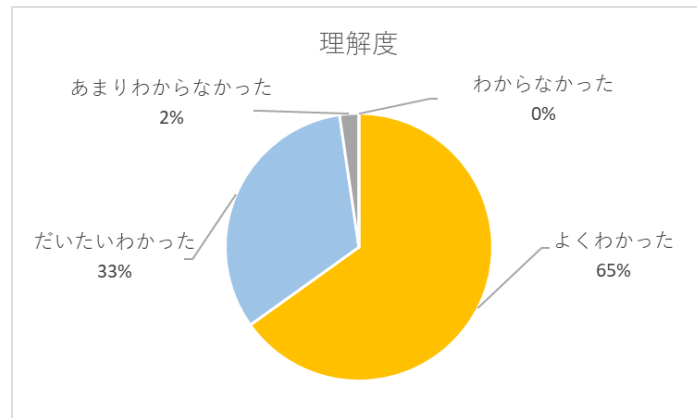
ワークショップの支援者（ファシリテーター）の役割

Ⅱ アンケート結果

1 満足度



2 理解度



Ⅲ 参加者からの声

- ・自分の中で整理ができて良かったです。
- ・広すぎて何から関わればいいのかと思っていましたが、楽しくできそうです。
- ・自分の中でもややもやしていたことが、腑に落ちました。
- ・ゆとり教育に生涯学習の視点があったことに目から鱗でした。
- ・教育の「学び」と首長部局との取り組みをうまくつなげたいです。
- ・つながりづくり、実践します。
- ・基礎的なことや心構えを学ぶことができました。
- ・社会教育・生涯学習が推進されてきた背景がよく理解できました。
さらに自分自身も自主的な学習をしたいと思います。

Ⅳ 講師からひとこと

今回の研修では、初めて社会教育行政に関わるみなさんを念頭に、「社会教育」や「生涯学習」といった基本的な用語や考え方の意味について解説をしました。社会教育の多様さやあいまいさは、社会教育の弱点でもあり同時に、最大の魅力でもあります。ぜひ、これからもさまざまな機会で社会教育についての学びを続けてください！

Ⅴ 担当者からひとこと

「社会教育」と「生涯学習」の違いをはじめ、分かるようで分からない言葉の意味や、生涯学習が進められてきた背景、社会教育と生涯学習を結びつけるために必要な視点などを解説していただき、社会教育とはとても幅広い意味を持つ教育の場であることを理解することができました。当センターでも、人づくり・つながりづくり・地域づくりの循環を生み出す社会教育を目指して、今後も研修会を企画していきたいと思っています。この度はご参加いただき、ありがとうございました。